

令和3年度 学校推薦型選抜 小論文（生活科学科 生活科学専攻）解答例

問1（40点）

【採点のポイント】

- ・ワーク・ライフ・バランスの意味を読み取れていること。
- ・自分の将来とワーク・ライフ・バランスについて述べられていること。
- ・解答全体の論理に一貫性があること。
- ・基本的な文章表現ができていること。

【解答例】

私は、将来、地元の鹿児島で服飾や被服に関わる仕事に就きたいと考えている。小さいころから手芸や裁縫が好きで、中学校の手芸部や趣味で製作した小物や洋服を家族や友人にプレゼントしたときに喜んでくれたことが忘れられず、自分の好きなことを生かして人に喜んでもらえるような職業に就きたいと考えるようになった。結婚や出産をしても仕事はできる範囲で続けたいと考えており、子どもが小さいうちでも子どもの成長にあわせて勤務時間などを調整し、仕事と家庭生活や子育ての両立をさせたいと思う。子育てを終えた後も家族の介護のサポートも必要になってくると思うので、できるだけ地元就職し、家族を支えたいと考えている。 (292字)

問2（60点）

【採点のポイント】

- ・自分のワーク・ライフ・バランスを実現するための具体策について述べられていること。
- ・解答全体の論理に一貫性があること。
- ・基本的な文章表現ができていること。

【解答例】

私の将来のワーク・ライフ・バランスを実現させるための具体的な方法について述べる。

まず現在、若者の約半数がフリーターなどの非正規雇

用であるといわれているが、非正規雇用となると、収入が低く雇用が不安定なため、結婚や子育てが難しいという問題がある。そこでまず、短大では服飾や被服に関する専門的な知識を学ぶだけでなく、色彩検定など仕事に生かせるような資格を取得したり、スキルを身につけることで少しでも経済的に自立できるように努めることが解決策の一つであると考えます。

また女性の社会進出が進む一方で、家事や育児の分担は圧倒的に女性が多いことが社会問題として指摘されている。生活科学専攻では、子育てや介護に関する知識や制度について学ぶことができるため、社会保障や福祉制度について勉強しておくことも将来役に立つと思われる。仕事と子育てや介護を両立させるためには、夫を含めた家族の理解やサポートが不可欠である。したがって事前に夫婦の分担や協力体制を話し合ったり、そのために自分の考えや意見を伝えられるようなコミュニケーション能力を身につけることも有効になると考える。(495字)